キリスト教と科学の共通点

工学部物理工学科3年

平松信義

東大YMCA寮の恵まれた環境で舎生の皆さんと交流して生活できることを、ありがたく思います。僕は学部で物理学を専攻する学生です。また非クリスチャンとしてキリスト教を学ぶ立場です。聖書と科学を誠実に勉強しようと思う僕にとって、キリスト教と科学の共通点を考えることはとても大きな価値があります。その共通点と寮生活を通じて学びたいことについて紙面をお借りして書きます。

まずキリスト教においても科学においても、ひとつ大切なことは、自らの認識と理性に限界があることを認めることだと思います。自然に科学者が説明できない現象があれば、それは自然が間違っているのではなくて、科学者の仮定した法則と彼らの認識に問題があります。僕が数学の定理を理解できないとき、問題はたいてい僕が前提となる概念を理解していないことです。定理の不備が原因となって僕が理解できないことはまれです。つまり、理解して説明できることと、正しいということはまったく異なる概念だと言えます。僕が聖書の勉強を進めていくうち聖書に書かれたことで理解できないことにもしもぶつかったなら、そのときも同様の発想を持ちたいと思います。理解できないとき、原因は僕が未熟で経験が浅いことにあるのではないか、自分自身に対して問いかけ続ける姿勢でありたいです。

また科学者たちとクリスチャンのコミュニティには、共有した目標があるように思います。それは社会全体への貢献です。たとえクリスチャンと科学者の一人ひとりが社会貢献を目指していなくとも、コミュニティは全体として周りへの貢献を目指していることが理想です。クリスチャンも科学者もコミュニティの中で閉じこもった活動を行ってはならないと僕は思います。さらに僕は、一つのコミュニティに重要な貢献をしてきた方は、間接的であるにせよ、必ず社会全体にも何らかの大きな貢献をしているように思います。これはクリスチャンにも科学者にも言えることです。視野と活動が中に閉じてしまうことのないよう、寮生活を通じて 心に留めておきたい目標は外の社会への貢献です。

さらに、科学とキリスト教の共通点はもう一つあります。それは、どちらも同じ志を持つ人間との議論によって理解を深めることができるということです。議論を通じて、考えが整理され、問題が明確になり、より精緻な理解にいたることができるというのは、多くの人々の経験ではないかと思います。僕も、寮での平日朝の早天祈祷会や木曜集会、総会などの機会を活用して聖書を深く理解するための議論ができれば嬉しいです。

キリスト教と科学の相違点に関しても、最後に触れないわけにはいかないように思います。相違点に関してどう考えるといいのか、僕はまだ分かりません。ただキリスト教の本質に関して、その相違点は問題でないのではないかと僕は予想しています。まだ僕の今のキリスト教の理解は限定的で、勉強は始めたばかりです。東大YMCA寮の素晴らしい環境で学生生活がおくれること、いわば特権に感謝しつつ、科学と聖書を真摯に学びたいと思います。